

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00319

研究課題名（和文）中世日本における祈願と救済の境界的宗教空間に関する総合的研究

研究課題名（英文）Comprehensive study of Medieval Japanese liminal religious space of Prayer and Salvation

研究代表者

阿部 美香（ABE, MIKA）

名古屋大学・人文学研究科・共同研究員

研究者番号：10449093

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、宣陽門女院の発願になる作善としての醍醐寺閻魔堂や東寺西院御影堂及び融通念仏縁起の宗教空間に焦点を当て、比較対象として、九条摂関家による皇嘉門院追善の延暦寺大乘院や二十五三昧会、また聖衆来迎寺本六道絵等に注目し、基盤となる基礎資料の探査と総合的な解釈検討を進めた。その結果、新出の資料の分析を通じた基盤研究を深めると同時に、相互の思想的な関係性を導き出すことができた。また、そこに源信の往生要集から貞慶と慈円の諸講式に至る思想や教学と宗教的実践の主体的な運動が、重要な役割を果たしていたことも実証された。それらの成果からは、宣陽門院の宗教的主体性というあらたな課題が見出された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

宗派、教学、寺院等の分野毎の研究枠組を横断し、境界的宗教空間の生成と機能を支える基盤となる資料の探査を進めた結果、縁起絵巻や講式表白等の儀礼テキストを中心に、新出の資史料を多く学界に紹介して貴重な歴史文献を提供することができた。なかでも、顕密浄土の仏教世界の、汎宗教的な特色ある中世宗教空間から、国宝六道絵等の記念碑的な宗教文化遺産の成立基盤を解明する重要な手掛かりを多数提示することができた成果は大きい。またそれらの研究を文学・美術史研究者と連携して取り組み、成果を発信できた意義は大きく、地域社会への貢献を含めて、あらたな研究領域の開拓に繋げることができた。

研究成果の概要（英文）：The present study explored and analyzed foundational scriptural materials especially focusing on the liminal religious spaces of Daigoji Enmado and Toji Saiin Mieido, in the construction of which Senyomonin played a vital role, as well as the Yuzu Nembutsu Engi; and for a comparative perspective, it also focused on the Shojuraigoji Six Realms paintings. The project findings helped us to deepen our fundamental understandings through analysis of newly discovered scriptural materials, and at the same time, it also helped to map the ideological intertwining among the said religious spaces. The study further established the significant influence that the religious thoughts and practices of various active religious movements beginning with Genshin's Ojoyoshu to Jokei and Jien's Koshiki had on the aforesaid liminal spaces. Moreover, the findings of the present study lead to yet another important but unexplored theme which is Senyomonin's idiosyncratic religious subjectivity.

研究分野：中世宗教文芸

キーワード：中世宗教空間 宣陽門院 六道釈 貞慶 融通念仏縁起 醍醐寺閻魔堂 慈円 寺社縁起

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本の中世文化を理解するための不可欠な視座に、聖と俗、生と死、浄と穢、性と身体といった社会文化的世界観に基づく境界の領域がある。その研究は、歴史学や民俗学をはじめ人文学の諸分野でそれぞれ個別に行われてきたが、中世社会には、遺跡も伝承も残らず、歴史学の研究対象にもならなかった文化的境界上にあるテキストを通してのみ、はじめてすがたをあらわす宗教空間(仏事空間から国土観まで)が、多様な位相を示して存在する。本研究では、それらテキストの探査と分析に挑み、失われた宗教空間に光を当て、その成立と機能を問い直すことで、従来とは異なる手法で中世の宗教世界の本質を明らかにすることを目指した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、従来の人文学研究では研究対象とならなかった、宗教空間の生成と機能の中核を支える周縁的テキストを境界的テキストと認め、境界宗教空間の特質を明らかにすることにあつた。そのため、寺院の文献史料というテキスト研究と法楽和歌や説話などの文学研究、また仏事儀礼のフィールドワーク研究を組み合わせ、それらが伝来し機能した場(寺院の宗教空間から霊地霊場、および地域社会まで)に着目し、総合的な研究を進めた。これを、日本文学に立脚しながら、歴史学や宗教学、美術史、民俗学や芸能など人文学の各専門分野の研究蓄積を総合的に摂取し、統合することで、より深い次元での学際研究を追究し、海外研究者を含む共同研究による成果を積極的に社会還元し、共有・活用することを志した。

3. 研究の方法

本研究の遂行にあたり、以下の四つの課題を設定し、基礎資料の分析的研究を進めると同時に、相互の関連を含め、総合的な研究へと発展させた。

1. 都市の境界宗教空間を支える境界的テキストの研究...後世の規範となり、先例として継承されながらも失われてしまった醍醐寺閻魔堂の宗教空間を焦点に据えて、その世界の復原を試み、中世王家において女院の果たした主体的な役割についても探究を進めた。

2. 国土の境界宗教空間を描く境界的テキストの研究...日本の国土全体を念仏勧進の対象として、諸天や神々、冥府の十王とともに日本国衆生の救済を目指す勧進と結縁の運動を複合的に可視化した、特異な作品である『融通念仏縁起』絵巻の探査と分析に努めた。

3. 東国の境界宗教空間を物語る境界的テキストの研究...都と対置され、古代中世日本国を形づくる不可欠な地域である東国の境界宗教空間として、鎌倉や伊豆箱根、富士をめぐる縁起・秘伝・絵伝などの境界的宗教テキストに着目し、現代における文化芸術創造の試みにも協力しながら、地域社会への積極的な研究発信に努めた。

4. 王権の境界的宗教空間を創出した象徴的な境界的テキストの研究...慈円や貞慶が作りあげた宗教空間と儀礼テキストや、ハーバード美術館所蔵南無仏太子像の研究に取り組んだ。

4. 研究成果

本研究成果としてまず特筆されるのは、四つの課題設定のもとで探査・収集した重要資料について、解題を付し翻刻紹介を行って、広く共有・活用できる公開し、研究資源を構築したことにある。

研究協力者である大高康正はじめ、神道史、日本史、民俗学、文学研究者と合同で調査・報告を行った「菟足神社蔵 富士山・熱田信仰史資料調査報告」(『学苑』949号、2019年)は、これまで全く存在を知られていなかった、中世熱田独自の縁起や神祇説を説き示す資料である。胎内五位大事を含め、実際の神祇灌頂の場で用いられ1523年～1526年に熱田の法印から菟足神主らへ伝授されたことが明らかな資料群であることから、中世日本の神仏習合の歴史の研究の上

でも、重要な資料を提供することができた。

東国における宗教空間の探究として、継続して研究を進める伊豆・箱根、富士山をめぐる縁起研究では、最も重要な基礎資料である『走湯山縁起』『走湯山上下諸堂目安』の翻刻紹介を行った(『昭和女子大学女性文化研究所紀要』50号、2023年)。同時に、その成果を地域社会に発信することに努め、画家中村芳楽氏に協力して、東国の縁起研究に根ざす全くあらたな中村芳楽画『富士山絵伝』4幅の創作へと繋がった。

『融通念仏宗総本山大念仏寺所蔵融通念佛縁起絵巻資料集成』(『学苑』961、2021年)は、融通念仏宗総本山大念仏寺の協力を得て、高岸輝、神崎壽弘、阿部泰郎とともに合同で調査し、未公開であったに大念仏寺に所蔵される融通念仏縁起絵巻全点について解題を付し、原色図版をもってカタログ化したものである。中世から近世にかけて制作された絵巻を、一括して整理し、全て原色図版で掲載したことにより、縁起絵巻研究の上で重要な資料基盤を構築することができたと同時に、機関リポジトリを通じて国内外の研究者に利活用できるかたちで提供することができた意義は大きい。

「六道釈資料三題 仁和寺本『六道釈』・青蓮院本『六道講式』・都率谷所伝本『六道式』翻刻」(『美術史研究』437、2022年)は、聖衆来迎寺本六道絵の成立を考える手がかりとして、重要な資料でありかつ従来未紹介であった中世の六道講式(六道釈)を探查し、紹介したものである。研究協力者である山本聡美との共同研究を通じ、その成果を東京文化財研究所2021年度研究会や仏教文学会シンポジウム「六道語りの中世」(2022年)等において発表し、慈円の二十五三昧の六道釈の伝統や、その達成としての六道絵の成立と、それを支える儀礼と思想の基盤を明らかにして、『往生要集』の思想が儀礼を介して貞慶や慈円の主体的関与により六道絵という達成に至ったことを、「儀礼本尊としての六道絵」(『美術研究』437、2022年)や「六道釈が導く六道語り」(『仏教文学』48号、2023年)に論じ、分野を超えて大きな成果を提示することができた。

『ハーバード美術館南無仏太子像の研究』(中央公論美術出版、2023年)は、ハーバード大学とハーバード美術館、名古屋大学CHTによる国際共同研究の成果であり、その調査と編集に携わってきた。そのなかで、最も重要な像内納入品の願文を主として構成される諸資料の解読と分析に取り組み、中心をなす四弘誓願が、貞慶によって源信の『往生要集』から採られ、叡尊ら真言律宗に受け止められて、発願の中心をなすことを突き止めた。これは、従来見落とされてきた、思想史上、仏教史上の大きな発見である。その成果は、2023年ヨーロッパ日本研究協会(EAJS)大会におけるワークショップの開催や、日米の若手研究者による前近代日本宗教ワークショップ(2023年)を通じて国内外に共有、発信し、共同研究のメンバーとともに、国際的な共同研究のモデルケースを提示することができた。

宣陽門院の願主として造立された宗教空間の代表として、醍醐寺閻魔堂と、東寺西院御影堂の二つの宗教空間がある。それぞれの儀礼空間を支えた儀礼テキストが、貞慶の講式であった。後世の閻魔堂や六道絵に大きな影響を与えた醍醐寺蔵「『尊勝陀羅尼並般若心経発願』」については、『昭和女子大学女性文化研究所紀要』(51号、2024年)に基盤資料として翻刻紹介を行うとともに、貞慶の「舍利講式」の分析を通じて、宣陽門院が西院に納入した仏像や五重小塔、経典はじめとする宝物類が、舍利講式の儀礼と深く関わり構築され、東寺の中世的発展をささえるアーカイブであり祈りと救済の空間であることを明らかにした(「宣陽門院の宗教空間におけるほとけとことば」、2022年)。

加えて、真言に深く帰依した宣陽門院の原体験に、脱魂の体験があり、死して冥途(六道)を経て救済される閻魔堂のプログラムにおいて極めて重要な経験であったことを論じ、その入り口に美しい女性の死体が朽ちていく様をもって描かれる九相図が描かれることの意義を照らし出した。そこに大きな影響を与えていたのも貞慶の講式であり、貞慶との関わりのなかで後鳥羽院が九相観を核として“無常講式”を編んでいたことを、「九相図遡源試論」(『女性文化研究所紀要』48号、2021年)において明らかにした。

以上のように、四つの課題を設定して、それぞれの研究基盤となる境界的テキストというべき

資料を探查し、同時に複数の視点からの探求を試みた結果、宣陽門院という女院の宗教空間を基軸として、都市と地方、国土と王権を結び、後世に大きな影響を与えた冥府および祖師の儀礼空間の生成過程が、鮮やかに浮かび上がってきたことは、特記すべき本研究の大きな達成である。これらの研究成果を通じて、祈りと救済の儀礼に、宗派を超えて、往生要集にはじまる四弘誓願の系譜が、貞慶を通じて立ち顕れたことの意義は大きい。文学研究に立脚しながら、研究協力者との共同研究を通じ、美術史、宗教史、日本史研究を結び、顕密・浄土を結んで成り立つ中世の境界的宗教空間の解明に取り組み、あらたな研究モデルの提示を試みるとともに、地域社会から国際的な発信まで幅広く取り組んで、大きな成果を挙げる事ができた。

このほかの特記すべき成果として、奥会津地方の真言寺院（常楽寺・龍泉寺等）に蓄積された真言聖教の調査がある。小池淳一、久野俊彦、坂本正仁、阿部泰郎をはじめとする合同調査に参画して悉皆調査を進めた結果、中央と地方を結んで築かれた中世真言教学の基盤が新たに浮かび上がってきた。その研究成果を、地域社会や学界に発信・共有する役割の一端を担った（只見町で開かれたシンポジウム 2021 年、報告書 2023 年）。

また、美術史研究者との連携による六道絵の成立と展開に関する研究は、ハーバード美術館蔵『因果業鏡図』や、葛川明王院蔵『光明真言功德絵詞』の調査と研究というあらたな共同研究のフィールドを開くことにも波及し、大きな相乗効果を生み出している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 阿部美香	4. 巻 51
2. 論文標題 醍醐寺蔵『尊勝陀羅尼并般若心経発願』 翻刻と解題	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 昭和女子大学女性文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 11-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 阿部美香、板垣美玲、関口静雄	4. 巻 974
2. 論文標題 浄土木食空無撰『十夜由来根元記』翻刻と解題	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 学苑 昭和女子大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 阿部美香	4. 巻 48
2. 論文標題 六道積が導く六道語り その主体と『往生要集』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 仏教文学	6. 最初と最後の頁 19-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 阿部美香	4. 巻 437
2. 論文標題 儀礼本尊としての六道絵 六道積から読み解く聖衆来迎寺本六道絵	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 美術研究	6. 最初と最後の頁 31 - 44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 阿部美香	4. 巻 437
2. 論文標題 六道釈資料三題 仁和寺本『六道釈』・青蓮院本『六道講式』・都率谷所伝本『六道式』 翻刻	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 美術研究	6. 最初と最後の頁 45-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阿部美香	4. 巻 50
2. 論文標題 『走湯山縁起』『走湯山上下諸堂目安』前田尊経閣文庫本	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 昭和女子大学女性文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阿部 美香	4. 巻 48
2. 論文標題 九相図遡源試論 - 醍醐寺焰魔王堂九相図と無常講式	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 昭和女子大学女性文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阿部美香、高岸輝、阿部泰郎、神崎壽弘	4. 巻 961
2. 論文標題 融通念佛宗総本山大念佛寺所蔵融通念佛縁起絵巻資料集成	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学苑	6. 最初と最後の頁 277 - 362
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阿部美香、大高康正、井上卓哉、阿部泰郎、伊藤聡、三好俊徳、猪瀬千尋	4. 巻 949
2. 論文標題 兔足神社所蔵 富士山・熱田信仰史資料調査報告	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学苑	6. 最初と最後の頁 340 - 390
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 阿部美香
2. 発表標題 南無仏太子像と像内納入品におけるほとけとことば
3. 学会等名 前近代日本宗教ワークショップ：中世日本における言葉、テキスト、儀礼の響き：日本宗教研究の方法論を考える (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 阿部美香
2. 発表標題 中世女院が創り上げた宗教空間
3. 学会等名 ヨーロッパ日本研究協会2023年度大会：宗教的空間：中世日本における権力・信仰・イメージ (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 阿部泰郎、阿部美香
2. 発表標題 ハーバード美術館蔵 南無仏太子像の宗教的コンテクスト
3. 学会等名 ヨーロッパ日本研究協会2023：宗教的空間：中世日本における権力・信仰・イメージ (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 阿部美香
2. 発表標題 富士山絵伝から読み解く、山と海の神仏の物語 伊豆・箱根・三嶋の縁起語りから富士山へー
3. 学会等名 山と海の神仏・境界と越境 中世日本の異界遍歴・異類婚姻譚・変身の世界（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 阿部美香
2. 発表標題 渡り、到る、二河白道 - 『因果業鏡図』から読み解く顕密浄土の宗教空間
3. 学会等名 日本中世のことは・ほとけ・図像（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 阿部美香、阿部泰郎
2. 発表標題 常楽寺聖教のかたちとところ
3. 学会等名 常楽寺文化財説明会「文化財の発見と未来を考える」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 阿部美香
2. 発表標題 絵物語りの世界ー「融通念仏縁起絵巻」を中心として
3. 学会等名 おとなの寺子屋（徳融寺）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 阿部美香
2. 発表標題 『本尊釈問答』から開かれる学僧慈円の宗教空間
3. 学会等名 学僧慈円学会（第1回）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阿部美香
2. 発表標題 六道釈から読み解く聖衆来迎寺本六道絵
3. 学会等名 東京文化財研究所2021年度研究会
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 阿部美香
2. 発表標題 六道語りの儀礼と唱導 二十五三昧会と六道釈
3. 学会等名 仏教文学会12月例会「六道語りの中世」
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 阿部美香
2. 発表標題 絵巻がっなく、ほとけとひとびと 松原市丹南の来迎寺に伝わる融通念仏縁起
3. 学会等名 令和3年度 春季歴史講座（松原市教育委員会）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 阿部美香
2. 発表標題 「富士山絵伝」の絵解き解説
3. 学会等名 富士山の曼荼羅 ～ 富士山表口の信仰空間～ 展（静岡県富士山世界遺産センター）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阿部美香
2. 発表標題 伊豆マンダラの世界を語る
3. 学会等名 第10回富士山世界遺産セミナー「伊豆マンダラの世界～伊豆・富士山の信仰の接点」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阿部美香
2. 発表標題 伊豆マンダラ絵解き - 末代上人伊豆マンダラの旅
3. 学会等名 富士山と末代上人熱海の会総会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 楠淳證、阿部泰郎、後藤康夫、近本謙介、蜷川祥美、西山良慶、阿部美香、瀬谷貴之、高橋悠介、船田淳一、松井美樹、牧野淳司	4. 発行年 2024年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 -
3. 書名 解脱房貞慶世界	

1. 著者名 近本謙介、阿部美香他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 544
3. 書名 ことば・ほとけ・画像の交響 - 法会・儀礼とアーカイヴ	

1. 著者名 阿部 泰郎、阿部 美香、近本 謙介、レイチェル・サンダーズ、瀬谷 愛、瀬谷 貴之	4. 発行年 2023年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 384
3. 書名 ハーバード美術館 南無仏太子像の研究	

1. 著者名 阿部美香、大谷由香、岡田雅彦、川瀬由照、佐藤亜聖、眞田尊光、鈴木嘉吉、東野治之、内藤栄、西谷功、西山明範、船山徹、細川涼一、松浦俊海、箕輪顕量、八木聖弥、吉川聡	4. 発行年 2019年
2. 出版社 律宗戒学院	5. 総ページ数 474
3. 書名 覚盛上人御忌記念 唐招提寺の伝統と戒律	

1. 著者名 小池淳一、久野俊彦、阿部泰郎、坂本正仁、阿部美香、ブライアン・ルパート、近本謙介	4. 発行年 2023年
2. 出版社 福島県只見町	5. 総ページ数 79
3. 書名 奥会津の戦国文化をさぐる 学僧裕俊の旅と文化遺産	

〔産業財産権〕

〔その他〕

令和3年度春季歴史講座 絵巻がつなく、ほとけとひとびと-松原市丹南の来迎寺に伝わる 融通念仏縁起-
<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja/115800>
 令和3年度春季歴史講座 絵巻がつなく、ほとけとひとびと (配布資料)
<https://sitereports.nabunken.go.jp/115800>
 令和3年度春季歴史講座の動画(前半)<https://www.youtube.com/watch?v=Rcd7DBMBfWI>
 令和3年度春季歴史講座の動画(後半)<https://www.youtube.com/watch?v=Ko-XfttU8wk>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	山本 聡美 (Yamamoto Satomi)		
研究協力者	大高 康正 (OtaIa Yasumasa)		
研究協力者	高岸 輝 (Takagishi Akira)		
研究協力者	井上 卓哉 (Inoue Takuya)		
研究協力者	伊藤 聡 (Ito Satoshi)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	牧野 淳司 (Makino Atsushi)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会	開催年
ヨーロッパ日本研究協会2023: 宗教的空間：中世日本における権力・信仰・イメージ	2023年～2023年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------